

-Index-

支援学級相談（教育相談）申し込み受付開始
支援学級相談および通級指導教室 Q&A
支援学級担任の声（支援学級相談）
冬の補聴器トラブル



支援学級相談（教育相談） 申し込み受付開始！

本校では、特別支援学級に在籍する児童・生徒についての「支援学級相談（教育相談）」を行っています。

令和4年度の「支援学級相談（教育相談）」の申し込み要項については、2月上旬に校園メール等を通じて各学校へお知らせしました。趣旨をご理解いただき、該当する児童・生徒および保護者にご案内いただきますようお願いいたします。

希望調査書は、在籍校より送付にてご返送ください。

- 支援学級相談では、4月に全体説明会を行います。説明会の詳細は、希望調査書を提出された各校へ送付します。
- 年度途中での希望者については、随時ご相談に応じます。
(ご希望に沿った時間帯での指導・相談にするためにも、お早めにお申し込みください。)

＼問い合わせは、担当者までお願いします／

2月25日(金) 〆切

大阪府立中央聴覚支援学校
特別支援教育コーディネーター
TEL 06-6761-1419 8:30~12:15/13:00~17:00
FAX 06-6762-1800

尚、本校では「通級指導教室」を開設し、通常の学級に在籍する小学校児童・中学校生徒を対象に、きこえやことばに関する指導や相談も行っています。「通級指導教室」については、4月に各学校へご案内させていただきます。

<概要> 支援学級相談・通級指導教室

	支援学級相談（教育相談）	通級指導教室
対象	<p>○大阪市内と守口市内の小学校・中学校で、<u>特別支援学級</u>に在籍する聴覚に障がいのある児童・生徒の相談を希望される<u>学校</u></p> <p><i>学校(特別支援学級担任)への支援で、児童・生徒への指導のみを実施するものではありません...</i></p>	<p>○大阪市内と守口市内の小学校・中学校の<u>通常の学級</u>に在籍している児童・生徒</p> <p>○聴覚に障がいがあり、きこえ・ことば・発音などに関する指導や、学校生活において支援が必要な<u>児童・生徒</u></p>
指導時間	<p>○相談時間は1時間程度を基本とし、本校への来校支援・在籍校への訪問支援を行います。</p> <p>○回数・形態は調整して決定します。(訪問回数は学期に1回程度)</p>	<p>○在籍校と調整して決定します。</p> <p>○原則は、次の時間帯での指導になりますが、希望に応じて午前中に学習することができます。</p> <p><指導時間帯> ①14:00~②15:00~③16:00~ (小中学生とも1回60分程度)</p>
指導内容・その他	<p>○きこえに関する在籍校での配慮事項、発音や言語、きこえに関する学習など、自立活動についての相談を行います。</p> <p>○特別支援学級担任に加え、学級担任にも、教育相談内容の参観と懇談をしていただくことができます。</p> <p>○本校児童・生徒および通級・支援学級相談児童・生徒との交流も行っています。</p>	<p>○発音・発語指導、補聴機器の装用指導と聴覚学習、言語・コミュニケーション指導、きこえに関する指導など、自立活動に関する指導や教科学習の補充を行います。</p> <p>○本校児童・生徒および通級・支援学級相談児童・生徒との交流や、在籍校訪問も行っています。</p>

支援学級相談はこちらです！

支援学級相談および通級指導教室 Q&A

Q 今年度、申し込みました。

来年度も希望しますが、必要な手続きはありますか？

「支援学級相談」および「通級指導教室」を、今年度に引き続き、継続で希望される場合も申し込みが必要です。「支援学級相談」については2月上旬、「通級指導教室」については4月に送付する案内をご確認のうえ、お申し込みください。



Q 来年度、新中学1年生に申し込みを予定している生徒がいます。

小学校・中学校、どちらから申し込めばよいでしょうか？

新小学1年生、新中学1年生については、進学先（4月以降の在籍校）からの申し込みとなります。本人・保護者と相談のうえ、現在の在籍校と進学先の学校での情報共有をお願いします。



Q 特別支援学級に在籍しています。

「通級指導教室」に通うことは可能ですか？

特別支援学級に在籍している場合は、「支援学級相談」の対象となります。本人・保護者と相談のうえ、「支援学級相談」にお申し込みください。

Q きこえているかもしれませんが、発音が不明瞭です。

「支援学級相談」や「通級指導教室」の対象になりますか？

本校の「支援学級相談」および「通級指導教室」については、聴覚に障がいのある児童・生徒が対象となります。尚、大阪市内には他校の児童生徒の受け入れ可能な「通級指導教室」が15校設置されています。また、通学区域の府立支援学校では、障がい種別に応じた支援方法・教材教具等に関しての助言などを行っています。本人の実態に合わせて、関係機関との連携を行ってください。



支援学級相談アンケートより

支援学級担任の声 / 支援学級相談に申し込んで良かったこと

〈小学校〉

- ・現在の子どもの実態（聴覚に関すること、言語能力に関することなど）を、専門的な知識に基づいて教えていただけたこと。
- ・訪問支援や来校支援を計画的に行い、**学習の進め方や発音の練習の方法などについて、教えていただくことができて良かったです。**情報の共有もでき、いろいろと相談することもできました。
- ・児童の現状にあった支援内容を用意してくださり、**前回に比べて成果を分かりやすく示してもらえるので、その後の支援方法を改善しやすいです。**持ってきてくださる教材などを見せていただけるので、真似しながら児童がより伸びるように、日々勉強することができています。
- ・補聴器に関する学習は、支援の時しかできないので、児童にとってよかったと思う。**語彙力を伸ばす指導**もして頂き、教室での学習にも役立っていると思う。
- ・年度の早い時期に訪問支援をしていただいたことで、**個別の教育支援計画や指導計画を作成するときに役立った。**また、学級での様子を見て助言いただくことで、児童理解が深まった。
- ・聴覚障がいについて教えていただき、また**具体的な手立て**についても話していただき、見通しを持つことができた。
- ・聴覚についての専門的な知識が少なく、児童に対する効果的な支援がわからないので、**支援の仕方や学習内容のアドバイスは、本当に助かっています。**
- ・個別の対応については、実態に合わせての困り感をどう解決していけばいいのか指導していただいたことで改善することができました。教職員向けの研修会では、**聴覚障がい児童の「きこえ」**について話していただき、**教職員間で共有できたことがとても良かったです。**

〈中学校〉

- ・本人や担当者が障がいについて、**専門的かつ実用的な知識**を得ることができたから。
- ・生徒とともに、補聴器のことや聴覚障がい、耳のしくみについて学べた。また、**具体的な支援方法や支援体制の見直し**も行えた。
- ・訪問支援をしていただいた際には、きこえの学習だけではなく、**生徒が不安に感じている授業も見ていただき、アドバイスもいただき、とても今後の参考になりました。**
- ・訪問支援では、こちらから相談したいことを予めお伝えした上で訪問していただき、本人も入ったの懇談時間をとってもらったことです。**実際の学校生活の様子を見て、相談にのってもらえたことも、とても良かったです。**

アンケートへのご協力、ありがとうございました！

冬の補聴器トラブル

寒い季節になると「補聴器の調子が悪い」「電池を交換したのに、音がきこえにくい」と訴えてくる子どもたちが増えてきます。その原因は何でしょうか？それぞれの発達に合わせて、子どもたち自身が、その原因や対処法を身につけることで、日々の聴覚活用につながります。

原因① 補聴器本体とイヤモールドをつなぐチューブ内に、水滴がたまっている

子どもたちが持ってきた補聴器をよく観察すると、チューブ内部に水滴がたまっていることがあります。補聴器を装着していると、チューブ内部の空気は体温により温まりますが、外気との温度差が生じるため、結露が発生してしまいます。そのため、結露による水滴がチューブ内にたまり、音が通らなくなってしまいます。

チューブ内部に
水滴がたまる



(対応策) チューブ内の水滴を取り除く

ティッシュでこよりを作り、水滴を吸い出します。空気で水分を出す便利な「エアブロー」「エアパフアー」等の使用も有効です。

こよりをチューブ、イヤモールド内に差し込むと、水滴を吸い出すことができます！



原因② 乾燥状態と二酸化炭素が影響して、電池の寿命が短縮される

補聴器で使用する「補聴器用空気亜鉛電池」は、空気中の酸素を使って発電する電池です。シールをはがすことで、電池の空気穴から酸素が取り込まれて機能します。石油ストーブやガスストーブなどの暖房器具を使用する場合、換気を十分に行わないと空気中の二酸化炭素が増えるため、電池の寿命が短縮されます。

(対応策) 部屋の換気を行う

電池の保管は、常温、常湿が最適です。直射日光、高温多湿を避けて保管しましょう。新型コロナウイルス感染症の感染防止対策としても徹底されていることと思いますが、部屋の換気をこまめに行うことが大切です。

原因③ 気温が低いため、電池の発電能力が劣ってしまう

補聴器で使用する「補聴器用空気亜鉛電池」は、化学反応によって発電します。一般的に気温が低いと発電能力が劣り、寿命も短くなります。



(対応策) 電池のシールを外してから、しばらく手で温める

寒いところで使用する場合は、なるべく電池が冷えないようにします。寒い季節はシールを外してからすぐに補聴器に入れて作動させるのではなく、使用する前に手の体温で温めることで、電池が長持ちします。本校では、シールを外してから1分程度、手で温めてから、電池室に入れて使用するようになっています。



近年、充電式の補聴器も増えてきましたが、まだまだ電池式の補聴器が多数を占めています。冬の補聴器トラブルの原因にあるように、電池の誤った使用および管理方法は、電池の消耗や補聴器の故障につながります。

電池の寿命

電池には寿命があります。購入する際は電池の使用期限を確認する習慣を身につけると良いでしょう。尚、通販や量販店などで安売りしている商品には、使用期限が迫っているものもあるので要注意です。

電池の大きさや補聴器の機種、使用状況によって、電池がなくなるまでの期間は異なります。だいたいの交換の頻度を覚えておくとともに、予備の電池を忘れずに携帯することが大切です。

<電池の使い方 チェックリスト>

- 電池のシールを外してから手で温めるなどして、補聴器を使用していますか？
- 電池のパッケージに記載されている使用期限を確認していますか？
- 補聴器を外しているときに、電池は乾燥ケースと別の場所で保管できていますか？（乾燥ケースに電池を入れると、消耗が早まってしまいます！）

「みみネット」編集部：

大阪府立中央聴覚支援学校 聴覚支援センター 担当：中咲、金森
〒540-0005 大阪市中央区上町1-19-31
TEL. 06-6761-1419 FAX. 06-6762-1800